

令和元年度第3回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 令和元年8月9日(金)午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 県立大学飯田キャンパスA館2階大会議室
- 3 出席者 委 員 金丸康信 島田眞路 徳永保 古屋玉枝 山口由美子
法 人 清水理事長 神宮司副理事長 相原理事 下村理事 流石理事
八代国際政策学部長 西澤人間福祉学部長 名取看護学部長
佐藤大学院看護学研究科長 渡邊図書館長
箕浦地域研究交流センター長、黒羽キャリアサポートセンター長 ほか
事務局 井上私学・科学振興課長、林総括課長補佐 ほか

<議題>

- (1) 令和元年度第3回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要(案)について
審議の結果、各委員から特段の意見なく、案のとおり了承。

<議題>

- (2) 公立大学法人山梨県立大学の平成30年度業務実績に関する評価及び評価結果(案)について

○委員長

小項目1、2については、皆様の意見が一致しているため、Ⅲでよろしいと思います。

○委員長

小項目3について、私だけがⅡという評価をしているが、年度計画の立て方について、中期計画を見ると、COC+事業等を通じて、学部間及び他教育機関、研究機関、産官民の連携強化を推進するとともに、サービスラーニング科目をはじめ地域関連科目の充実を図り、ということで最初から4行目は地域との連携になっており、体験型アクティブラーニングというのは僅か最後の1行だけなので年度計画にその記載が無いということ事態が望ましくない。年度計画にはアクティブラーニングとしか記載されていないため、それで大学の事業報告もアクティブラーニングのことしか記載していないということだと思うが。今回は、私も年度計画に対する評価なので皆様と同じⅢで良いと思うが、ここは来年度以降、中期計画に4行ぐらいが大学機関以外との連携とか、地域関連科目の充実ということが記載されているので、実際にアクティブラーニングは2行しか記載されていないので、年度計画にその2行のことしか記載していないというのは、些か残念かなと思う。

○法人

分かりました。

○委員長

小項目4については、私だけがⅣで、他の委員の皆様はⅢということですが、ここは私なりに海外インターシップに多くの学生が参加したということの評価すべきではないかと思っ

た。委員の皆様いかがでしょう。

○委員

委員長の言うところは良いが、TOEICの結果の記載が無かったということでⅢという評価にした。

○法人

本日の配布した補足資料をご覧いただきたい。こういう資料があれば委員も評価ができたのではないかと思う。

○委員

参加人数が延べ17名であったことから、事業をより周知して参加していただけたらなと思った。

○委員

こういう資料があれば。

○委員長

委員もこれがあればⅣでもと。委員から周知してより多くの参加者をという意見もありましたが、他の委員がよろしければⅣという評価で如何でしょうか（異議なし）。

○委員長

小項目5については、委員がⅣという評価をしているが如何でしょうか。

○委員

学部横断型の取り組みを評価したのが1つと、地域通訳案内士の養成という実用的なものに熱心に取り組んでいるということでⅣという評価にした。

○委員長

今の意見について他の委員の皆様如何でしょうか。

○委員

年度計画を上回る何かという点が無かったので、Ⅲという評価にした。

○委員長

2019年あたりからの認証評価項目には、大学全体の修得目標とその達成に向けた取り組みが入ってきて、結構難しく学部毎の修得目標の取り組みなら分かりますが、学部を超えた修得目標の設定の取り組みについては、新しいトレンドとして学部横断型のゼミということで、今後視野を広げた取り組みが求められている。そういう意味で新しいことを取り組んでいるという点で、Ⅳという評価で如何でしょうか。

○委員

ご自身もⅢという評価もしているのです。

○委員長

分かりました、それでは小項目6についてはⅢという評価にします。今後とも学部横断型のゼミについては、修得目標を明確に設定していかないと、それとの関連で学部横断型教育という形で取り組んでいただきたい。

○委員長

小項目6については、全委員がⅣという評価のため、Ⅳでよろしいと思います。

○委員長

小項目7については、委員及び委員がⅣという評価をしたが、その理由を伺いたい。

○委員

年度計画で新卒者の国家試験合格者を100%に設定している中で、実際の合格率においても指導の結果が反映されていると思ったので、Ⅳという評価にした。

○委員

年度計画通りかもしれないが、高い合格率ということでⅣという評価にした。

○委員

平成30年度は、2人不合格者がいるということで、法人もⅢという自己評価をしているのだと思う。

○委員

高い合格率を維持していることは素晴らしいことだが、例年通りということでⅢという評価にした。

○委員長

2人不合格者は出ているが、高い合格率であり、素晴らしいことだと思う。

○委員

そういうものだと思う。他の国家資格もそうだが、平均の合格率が甘いと思う。

○委員長

委員及び委員からⅣという評価があったので、Ⅳということでよろしいか（異議なし）。

○委員長

小項目8について、私がⅡという評価をしたのは、大学院設置準備について、業務実績報告書に具体的に明示されていなかったからであるが、法人から何かありますか。

○法人

補足資料5ページ、(1) 地域デザイン研究科は、学位プログラム型の構想で進めてきたもので、(2)、(3)は、学部の上に設置する修士課程及び博士課程になる。地域デザイン研究科は、当初は福祉も含めた形で構想したが、福祉の方が、もう少し特化した形で、大学院を設置したということで、これが分かれた。地域デザイン研究科は、学部の上に設置するということではなくて、他の学部の人達にも参画してもらって設置しようと、いわば学位プログラム型の構想である。これは山梨県のニーズにも非常に合ったものと思っている。

○委員長

補足資料により説明がありましたので、私もⅢで結構である。

○委員長

小項目10について、私だけがインターネット出願を導入したことからⅣという評価をしたが、インターネット出願は当たり前のことなのか。

○委員

法人がⅢという評価している。

○法人

本学だけではなく、全国的にインターネット出願で志願者が増えている。

○委員長

全国的ということなので、Ⅲという評価にする。

○委員長

小項目11について、私だけがⅡという評価をしているが、業務実績報告書等にほとんど記載されていなかった。実は今色々なことがある中で、単に入試の時ということだけではなく、今は、在学してから、或いはどうなったかという追跡調査を求められており、既にそれを実施している大学がある。正直言って、入学者選抜入学対象者アンケートだけっていうのは、10年前くらいなら良いですけども、そういう意味では、現時点では、少し、どうかと思った。

○法人

平成30年度にアドミッションズセンターを立ち上げ、追跡調査等の一部は始めている。1年間の実績を前回は提出しているが、それを基にして、今年度は、アドミッションポリシーに沿った入試ができているか、また、大学として、社会に説明をしていく責任があるので、入試分析という視点からもう少し深めていきたいということで、今計画している。

○委員長

正直言って、入学対象者アンケートだけじゃなく、入試前高等学校時代の成績や入試の時の成績、それから入学してから、例えば、2年の段階の成績という形で、統一的にやっ

くというエンドロールマネージメント（EM）をやっていただきたいと思っている。今法人が説明されたことを実施されているということなので、私もⅢという評価とするが、業務実績報告書に、その内容を追記していただきたい。

○委員長

小項目13について、委員と委員がⅣという評価をしているが。

○委員

年度計画以上に実施ができており、様々な取り組みを通して、互いに高め合う好機となっていることからⅣという評価にした。

○委員

Ⅳにするまでは無いかと。

○委員

委員がおっしゃったとおり、様々な取り組みを通して、互いに高め合う好機となっているという点は評価できると思う。

○委員長

FDは大学設置基準に明記されており、これは義務なので、FDを実施したということは、正直言って実績にはならない。FDを実施した結果、どういうことができたのかということを経営実績報告書に記載していただくと好意的な評価になる。

○委員

通常は年度計画というところで評価をしているが、FDが大学設置基準ということがある中で、それが実際結果として、そういう機会になっているということも評価しても良いのかなと思う。

○委員長

それでは、Ⅳという評価でよろしいか。（異議なし）

○委員長

大項目1-1-（1）について、今までの審議の結果、Ⅳという項目が増えてきたので、私も若干厳しい評価をしていたが、これはAという評価で良いと思う。

○委員長

小項目14について、私だけがⅢという評価ですが、現在中教審では学修成果の可視化ということを行っているが、あれは手段なので目的ではない。あくまでも目標は修得の保証である。正直言って、学生の授業評価の内容は、私から見ると、アンケートの類いである。全国の大学の中で、この取り組みが先進的と言えるかどうかですが、委員如何ですか。

○委員

私その部分見落としておりましたが、委員長のおっしゃるとおりだと思います。

○委員長

教育の実施体制については、厳しいことを記載したが、如何ですか。

○法人

委員のコメントにあるとおり、昨年度受審した認証評価において、本学の取り組みを高く評価してもらっているのので、自信を持って、IVという自己評価にしている。

○委員長

分かりました。認証評価機関も評価しているということであれば、私もIVという評価にすることもやぶさかではありませんが、是非、時々ですね、大学の取り組みというのは手段が目的化していて、FD・SDを行えばというところがあるので、あくまでも学生が実際に修得をしたことを如何に確認するかということが最終ゴールなので、そこに向けて頑張っていたきたい。

○委員長

大項目1-1-(2)について、これは相当する小項目が14しかないということなので、それをどう評価するかということになる。小項目評価がIVなので、AかSしかないですけれども、各委員如何ですか。

○委員

小項目14がIVという評価にしたので、自然的にSという評価にした。

○委員

私も小項目でIVという評価をしたので、Sという評価にした。

○委員

計画的に実施できているため、Aという評価にしたが、各委員の評価コメントを聞くと、Sという評価でも良いかとは思ふ。

○委員

小項目14はIVという評価をしたが、法人の自己評価でⅢがあったので、全体を見るとSではなくAという評価にした。コメントに記載したとおり、認証評価の好結果については評価したいと思う。

○委員長

私とすれば、未だ途中経過なので、ここでSをつけてしまうと、これで完成ということになってしまうので、教育の実施体制については、今後更に努力していただきたいということでAという評価にさせていただきたい。(異議なし)

○委員長

小項目15について、私だけがⅣという評価にしたが、ラーニングコモンズの整備について、高く評価をした。他の委員の皆様が、そんなに評価することはないということであれば評価を戻したいと思うが、如何か。

○法人

補足資料7ページに、ラーニングコモンズの資料を添付している。

○委員長

正直、今授業以外の学修をどう確保するかというのが課題となっている。授業が終わると部活に行く人は別にして、普通の学生は自宅に帰るか図書館に行くしかないという状況である中で、ラーニングコモンズで学生が自習できる環境を作るとは、かなり力を入れている事柄だと思ったので、私はちょっと高く評価させていただいた。

○法人

本学では図書館の利用時間の延長もしているが、その上で、さらにラーニングコモンズを設置し、学生の単なる学修ではなくて、学生同士あるいは学生への学修支援という形で利用してもらっている。

○委員長

学生が自ら主体的に学修することを如何に進めていくかということについて、県民の方に一番アピールしやすいポイントだと思うが、Ⅳという評価でよろしいか。(意義なし)

○委員長

小項目17について、私は、学生へのメンタルヘルスの取り組みを評価し、Ⅳとしている。委員から実際の利用数を確認したいとのコメントがあるが。

○法人

入学の健康診断の時に1回と、少し落ち着いた5月に1回、希死念慮等、精神的なものについて、アンケート調査を実施している。面談やメールで連絡が取れなかった学生38名についても、担任等を通じて、所在等を確認しており、教授会等にも報告をしている。

○委員長

各委員からⅣという評価にした方が良いと意見がなければ、Ⅲという評価にさせていただく。(異議なし)

○委員長

小項目18について、私だけがⅣという評価にしているが、その理由は、学生の修学支援については、今、国を挙げての最大の課題となっている。昨年度から、県立大学はかなりの予算を確保して、高い比率で授業料減免を実施しているが、去年の予算額をそのまま維持するという事は、そんなに簡単なことじゃなく、去年と同水準で実施していること自体が、

正直言って、財政的には相当高く評価できる。国としても修学支援の法律を出してということもあって、こういったところは、県民の皆様に対しても、しっかりとアピールすべきではないかと思い、Ⅳという評価にした。

○法人

これは従来4.4%を5%に引き上げたときに、Ⅳという高い評価をいただいて、それを今維持しているということで、法人としては、Ⅲという自己評価にした。

○委員

県立大学ということと、県民にとってというところを考えると、アピールするところはしっかりした方が良くと思うので、評価はⅢとしているが、限りなくⅣに近い評価である。

○委員長

それでは、Ⅳという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目19について、私だけがⅣという評価にしている。これは全学的な修得目標の設定と、その達成に関わってくるが、多分、どこの大学でも学部を超えた修得目標を設定して、それをどうやって実現するかは、キャリア科目でしか実現できないことが多い。国の新しい方針でも汎用的な能力をどうやって身につけるかについては、従来は教養科目で実施していたが、最近ではキャリア科目で実施するという事になっている。これらキャリア教育の体系化への取り組みを評価したところであるが、他の委員がⅢという評価にしているので、私もⅢで結構である。

○法人

昨年度、「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」及び「キャリアデザイン実践」、そして、その他のキャリア科目であるインターンシップなどを全額的な科目として、全学に示すとともに、すべての科目と、それから各学部との教育の連携を図るということで、年間の計画を一覧表にして、便覧に示し、学生たちに理解を求めている。それを各学部のキャリアサポート運営委員の先生たちに持ち帰っていただいて、それを学部の先生たちと協力して、そのキャリアデザイン科目を共同で運営していくというような了解を得ている。

○委員長

分かりました。今年度から本格的に実施するという事であれば、今後、その結果を踏まえ、評価をさせていただきたいと思う。繰り返しになるが、今までは既存の科目をキャリア科目に指定するという事はよくあったが、キャリア科目自体を体系化するというのは、なかなか珍しいことなので、是非、今後も努力していただき、その成果を期待している。

○委員長

小項目20について、私は、募集したが、応募が無かったということでⅡという評価にしているが、如何か。

○法人

最初応募が無くて、再募集はしたが、それでも無かった。これまで学長プログラムの研究が3件あって、それが2年間で終了した。これは学部挙げての組織的な研究であった。それゆえ、新たにテーマを掲げるといのは時間的に厳しかったかもしれない。

○委員長

応募が無くて実施していないのに、各委員がⅢという評価になっているが。

○委員

Ⅱに近いⅢである。

○委員

私もその点が気になったので、コメントに新たな認識を期待すると記載した。Ⅱに近いⅢである。

○法人

もう1つの農福連携の地域課題の事業に切り替えた。研究でも仮説どおりにいかず研究が失敗するということもあるので、応募が無かったというのは仕方ない。

○委員長

途中で年度計画の変更をすれば良かったと思うが、その時点では実績が無いのでということでは厳しい。Ⅱという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

I-2-(1)について、小項目20しかなくて非常に困ってしまう。

○委員

小項目1つで、大項目を評価するというのはどうかとは思いますが、これが決まりみたいなものなので、私はBに近いAである。

○委員

私も応募が無かったということは気になったが、他の農福連携事業で実績があったということでAという評価にした。

○委員

実際に応募が無かったという結果が記載されているが、年度中に特別に変化が無かったということで評価したが、限りなくBに近いAである。

○委員長

正直言って、S、A、B、Cといった場合、最近では、SとAが当たり前みたいなことになっているが、Bが平均である。Bというのは劣っているという評価ではなくて、国立大学法人

評価では、Bが圧倒的に多く、SやAは僅かである。ちょっとそういう意味で言うと、今回はBという評価にせざるを得ないと思う。(異議なし)

○委員長

小項目21について、年度計画に「重点テーマ研究」を創設し、研究活動を行うと記載がありながら、業務実績報告書には、テーマ設定が年度末に行われ、具体的な研究活動は次年度からとなったと記載されている。次年度から研究活動を行うということは、法人としてどう考えているのか。

○法人

従来の共同研究事業は続いている。今回、新たにそれに加えてブラッシュアップした重点テーマを設けることとしたが、その選定に時間をかけたためである。研究が停滞したということではない。

○法人

共同研究のことも含めて実施していることから、説明のとおり、計画通りの評価ということにしている。重点テーマ研究の実施が今年度からということになっているので、それを基に評価していただければと思う。

○委員長

年度計画を途中で変更等するとかを、重点テーマ研究を設定し、研究活動に着手したということでⅢという評価でも結構だが、年度計画の策定時点で、研究活動を行うというのは言い過ぎなので、重点テーマ研究を創設し、研究に向けた準備を進めるというような表現で記載していただければ十分だと思う。年度計画や業務実績報告書の記述を、もう少し丁寧にしていただきたい。

○委員長

小項目23について、私だけがⅡという評価をしているが、年度計画に「試行する」という表現になっており、実際に試行したのかが分からなかった。内容が、先程の小項目21と同様なので、Ⅲという評価で結構である。

○委員長

小項目24について、私は、臨機応変に奨励金制度を創設したということの評価し、Ⅳとしたが、Ⅲで結構である。

○委員長

I-2-(2)について、これはAという評価で結構であるが、来年度以降、具体的な展望を描いた形で年度計画を策定していただきたいと思う。

○委員長

小項目27について、私はⅡという評価をしているが、業務実績報告書にほとんど記述が

無い。何のために全学組織化をするのか、また、そのことによってどういう成果を期待しているのかが分からない。

○法人

実際には、国際教育研究センター、既存のキャリアサポートセンター及び地域研究交流センターなどを、大学として戦略的な組織化をして、今までは縦で繋いでいたものを横で繋ぐ。この全学化を含めた形で、全学の戦略的な運営体制を一本化するという議論は、役員レベルでは続けているが、業務実績報告書に記載する段階ではない。

○委員長

業務実績報告書に、変えることの理由や動機、そのことによって教員や学生の海外交流活動にどういうことが期待できるのかということを追記していただくことを条件にⅢという評価でも結構である。

○委員長

小項目28について、私と委員がⅣという評価をしているが、委員如何か。

○委員

交換留学協定校が中期計画を上回っているといことでⅣと評価した。

○委員

Ⅲという評価にしたが、計画通り順調に実施しているということで、限りなくⅣに近いと思う。

○委員長

中期計画のKPIをクリアーしながら、自己評価が如何なものかなど。

○委員

法人の評価を基に、評価した。

○委員

私も同様である。

○委員長

それではKPIの数値も1校しか上回っていないということなので、Ⅲという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目29について、私だけがⅣという評価をしているが、これは、外国人教員比率を全学人事方針に明文化したとあるが、これは大学運営の点からいうと非常に画期的なことだからである。人事の方針は各学部の方針がかなり強いというところがあるので非常に驚いてい

る。Ⅳという評価にすると学部からの反発とかがあるか。

○法人

そんなことはない。前にも昇任人事を優先してもらいたいという時には、学部の方に協力していただいて、その結果、昇任人事の案件が非常に増えた経緯もある。毎年度人事方針を出すということは、私の経験だと国立だとあまりないですよ。

○委員

理事長のリーダーシップが発揮されたということではないか。

○委員

私はⅢという評価をしたが、今の委員長の話をもつて、Ⅳという評価でも良いと思う。

○委員長

企業ではこれは当たり前かもしれないが、これを大学で実施するというのは、はっきり言って画期的であり、非常に驚きである。委員のコメントに実際の結果を記載されたいとあるので、それを業務実績報告書にするということで、Ⅳという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

I—3について、私も先程申し上げたことを業務実績報告書に追記してもらえれば、Aという評価で結構である。

○委員長

小項目30について、私と委員、委員がⅣという評価をしているが、如何か。

○委員

地域の課題にMiraiサロンという学生が参加する場ができたということで、私ども民間の立場からすると非常に高く評価できると思い、Ⅳという評価にした。

○委員

社会連携課が新設され、それがしっかり運営されていくという点でⅣという評価にした。

○委員

計画通りということでⅢという評価にした。

○委員

今話を伺うとⅣという評価でも良いと思う。

○委員長

県立大学としては、ここが一番頑張らなければいけないところだと思うので、Ⅳという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目31について、私だけがⅣという評価をつけましたが、委員これはあまり大したことでは無いことではないか。

○委員

さらに上を目指していただきたいと思う。

○委員長

それでは、Ⅲという評価で結構である。

○委員長

小項目32について、私と委員、委員がⅣという評価をしているが、如何か。

○委員

連携等の取り組みを実施しているということでⅣという評価にした。

○委員

委員と同様であり、計画以上に実施しているということでⅣという評価にした。

○委員

私はⅢという評価をしているが、他の委員の意見を伺う中で、限りなくⅣに近い評価でも良いと思う。

○委員

私も同様である。

○委員長

それでは、Ⅳという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目33について、委員と委員が法人評価と逆になっているが、如何か。

○委員

小項目21、23のことがあったので、Ⅲという評価にしたが、今議論があったので。

○委員

私の転記ミスです。評価はⅣで。

○委員長

それでは、Ⅳという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目36について、私だけがⅣという評価をしているが、これは、地元企業の就職説明会等に多数の学生が参加したという点を評価したからであるが、他の委員がⅢという評価をしているので、Ⅲで結構である。ただ、学生が地元企業の説明会に参加することは非常に良いことなので、法人としても自己評価を高くしていただければと思う。

○委員長

Ⅱについて、私だけがSという評価をしているが、如何か。

○委員

定義が難しいが、Ⅳの評価項目が増えたので、Sでも結構である。

○委員

Sでも結構である。

○委員長

それでは、Sという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目38について、私だけがⅣという評価をしているが、ガバナンス的なことを大型国立大学で実施しようとする、10年くらいを要してしまうと思っただけなので、他の委員がⅢと評価しているので、Ⅲで結構である。

○委員長

小項目39について、私だけがⅣという評価をしているが、Ⅲで結構である。

○委員長

小項目43について、委員だけがⅢという評価だが如何か。

○委員

インターネット出願は時代の流れだと判断し、Ⅲという評価をした。

○委員長

企業なら当たり前かもしれないが、大学が実施するというのは画期的な取り組みだと思うので、Ⅳという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目43について、前にも言ったとおり、単に研修に出したとか、研修会を実施しただけというところがちょっと引っかかりまして、もう少し業務実績報告書に、この結果どうなったかということに記載していただきたいと思った。例えば、研修に出したことで職員の視野が広がったとか、FDを年2回設けたということで、こういう成果が得られたとかを業務

実績報告書に記載していただかないと。

○法人

補足資料18ページに、キャリアパスの資料を添付しているが、中期計画にキャリアパスを策定するという記載があったので、これは平成28年度に策定したということで昨年度実績として報告したため、記載はしなかった。キャリアパスの主事・主任の職名の下のところ、いくつか研修メニューがあるが、今、事務局職員が48名おり、こういった研修を対象としているプロパー職員は12名いる。年齢層が離れているので、必ずしもこうした機会が巡ってくる訳ではないが、今回はリーダー研修の対象となる2名を派遣している。そのところは説明が不足していた。

○委員長

是非、中期計画の達成に向けた年度計画ですので、今から、業務実績報告書の中に、中期計画の達成に向けて、平成30年度に実施したことがどう関連しているかということ、今の説明したことを、追記していただければ分かりやすい。そこが無いと、何だか分からない。業務実績報告書に中期計画との関連について、研修に出したことがどう中期計画に記載されたプロパー事務職員に対するキャリアパスの策定に関連しているのか、それに向けてどのような成果があったのかを記載していただくことを条件にⅢという評価にする。

○委員長

Ⅲ-1について、私も小項目44の業務実績報告書に追記していただければ、Aという評価で結構である。

○委員長

小項目45について、委員と委員がⅣという評価をしているが、如何か。

○委員

もともとあるものを使って、収入を増やすという考え方を導入することは難しいことだと判断し、Ⅳという評価にした。

○委員

古本募金の取り組みを評価し、Ⅳとした。

○委員長

中期目標に外部資金、収入を上げることが記載されているので、法人の決算に厳密には反映されなくても、このことによって出費が抑えられたというような、財政上のことが記載されていないと分からない。古本募金等によって、中期計画の関連において実質的に大学の経費の支出がこれだけ抑えられたとか（財政的な観点で金額を踏まえて記載して、それが決算上反映できなくてもそれは仕方ない）を業務実績報告書に追記していただくということで、Ⅳという評価でよろしいか。（異議なし）

○委員長

小項目47について、委員だけがⅢという評価だが如何か。

○委員

Ⅳという評価で結構である。

○委員長

Ⅲ-2について、委員だけがSという評価だが如何か。

○委員

中小企業を見ている私としては、当学のこのような取り組みの視点が素晴らしいと思い、Sという評価にした。

○委員長

地方独立行政法人法においても、財政運営を努力するという事は強く法律上求めているので、決算書に反映できるような、去年のように電力料金を大幅に節減したような実績があれば良いですが、今年はAという評価でよろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目49について、私と委員がⅢという評価をしているが如何か。

○委員

行動計画を立てて実施したとあるが、更に努力をしていただきたいと思い、Ⅲという評価にした。

○委員長

認証評価において好評を得たことは評価できるが、厳密に言いますと、認証評価というのは法律的いうと、合格という評価しか無く、適格認定されたということになる。その中で実質的に高い評価を得たということになるが、法人評価の基本は大学評価ではなくて法人運営の評価であることから、自己点検、自己評価というのは基本的に法人運営の自己点検、自己評価を記載するのが基本になるが、委員の皆様がⅣという評価で良いということであれば、私も小項目の評価をⅣにするということについては異論がないがよろしいか。(異議なし)

○委員長

Ⅲ-3については、法人運営に対する自己点検、自己評価に関して何も記載がない。

○法人

認証評価でもエビデンスとして資料を提出したが、経営審議会や法人評価委員会等の外部の方々から指摘をされて、それを本学で自己分析、自己評価をして、翌年度の行動計画に繋げて、PDCAを回している。例えば、国際化ポリシーの策定がその結果の表れである。なかなかすぐに施策、改善に直結するというのは、中には費用もかかることもあるので難しい

面もある。一応、PDCAサイクルを回す組織的なことを実施しているということで自己評価をⅣにした。

○委員長

来年度以降、年度計画の立て方を工夫していただいて、今説明されたことを年度計画に記載していただいて、そういう欄が無くて、評価するところが認証評価のことしか記載がなくて、いきなり法人運営の自己評価のところはⅤというの。これが例えば、大学運営と法人運営のことがあって、大学運営のことにに関してⅣということであれば、Ⅴでも分かるが。公立大学法人評価というのは、あくまでも法人運営の評価が基本になるので、大学運営はその一部ということになるので、地方独立行政法人法上、ここをⅤという評価をするのは問題があると思うので、Ⅳという評価としたいが、よろしいか。(異議なし)

○委員長

小項目51について、私は学生が携帯端末を活用してウェブサイトを見ることが多いと思ったので、Ⅳという評価をしたが、他の委員がⅢという評価であれば、Ⅲで結構である。

○委員長

小項目52について、私と委員がⅣという評価にしたが如何か。

○委員

修繕一覧表作成により、予算と緊急性のバランスを取った対応に計画の高さが窺えたのでⅣという評価にした。

○委員長

国立大学では、減価償却を遙かに下回るものしか計上されていないということが常識なので、そもそも必要なところをリストアップしたところだけでも県当局が認めていただいたと思う。それでⅣという評価をした。

○委員

確かにそれは問題ではあるが。

○徳永委員長

実際に予算が計上されたら、高い評価をしたいと思うので、Ⅲという評価でよろしいか(異議なし)。

○委員長

小項目54について、私だけがⅣという評価をしているが、働き方改革を実施している中で、山梨県立大学がしっかりと働き方改革に向けて努力しているということ分かっていた方が良くと思ったからである。他の委員がⅢという評価なので、Ⅲで結構である。

○委員長

小項目55について、私だけがⅣという評価をしたが、これは、学生ハラスメントのアンケート調査の実施を評価したからである。

○委員

他の大学の状況は分からないが、通常通りということでⅢという評価とした。

○委員

看護や介護の分野ではハラスメントのことを取り上げているが、学生を対象にアンケートを実施しているということは、学生一人一人を大切にしているということは伝わるが、取り組みとしては普通と判断し、Ⅲという評価にした。

○委員長

他の委員の評価がⅢということであれば、Ⅲで結構である。構成員のスタッフのアンケートを実施することは当たり前ですが、顧客、大学生のアンケートを実施するという取り組みは引き続き実施していただきたい。

○委員長

Ⅲ-4 その他業務運営に関する目標については、全委員の意見が一致しているため、Aという評価でよろしいと思います。

○委員長

本日全体として各委員の意見が集約できましたので、このとおりとさせていただきたいと思ひますし、素案については今日の意見を踏まえて、もう一度書き直してください。

○事務局

了解しました。

○委員長

本日素案を示させていただいておりますが、もう一度事務局から今日の意見を踏まえて書き直したもので意見を聞いた方が良くと思います。

○事務局

了解しました。

○委員長

今日お帰りになって気づいた点や、これは記載しておかなければということがあれば、事務局にメール等で御意見をいただければと思います。その上で、素案を修正して皆様方に確認をさせていただきたいと思ひます。皆様方に御意見をいただいたものを、さらにブラッシュアップすることについては、私の方に一任していただければと思ひますが如何でしょうか(異議なし)。